

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果概要について

今年度、4月17日(木)に実施しました全国学力・学習状況調査(対象6年生)の結果につきまして、文部科学省より報告が届きましたので、お知らせいたします。この調査は、児童の学力や学習状況の実態を把握し、指導方法の工夫改善に生かすことを目的に実施されました。調査対象は6年生ですが、学校全体の状況と捉え、全学年を通じて一層の改善を図ってまいります。

児童に対する質問紙調査の結果まとめ

()内は、本校での割合です。

矢印は、全国平均に比べ
↑ やや上回っている ↑ 上回っている
→ ほぼ同程度
↓ やや下回っている ↓ 下回っている

【質問項目別全国平均との比較】

自己有用感・規範意識・社会貢献等

自分には、よいところがある。(86.0%)	→
将来の夢や目標をもっている。(82.8%)	→
困っている人は、進んで助ける。(94.2%)	→
いじめはいけないうことだ。(98.4%)	→
人の役に立つ人間になりたい。(97.6%)	→
生活の中で、幸せな気持ちになることがある。(90.1%)	→

【結果から・改善の方向】

- ◇全国平均と比べると、自分に自信をもったり将来の夢を描いたりする児童がまだ少ない現状があります。そこで、日々の成長や頑張りを自分で実感できる振り返りの工夫を取り入れていきます。
- ◇一方で、「人の役に立ちたい」という優しい気持ちは全国平均よりも高いのが誇れる強みです。地域やご家庭の力をお借りしながら、誰かのために動く喜びを広げ、自分の大切さに気付けるようにしていきます。

生活習慣・学習習慣等

朝食を毎日食べている。(97.5%)	↑
毎日、同じ時刻に寝ている。(88.5%)	↑
毎日、同じ時刻に起きる。(90.2%)	→
学校以外で1時間以上勉強している(39.4%)	↓

- ◇規則正しい就寝・起床や朝食の摂取など、基本的な生活習慣については、たいへん良好な結果となっています。一方で、家庭での学習時間を十分に確保できていない児童の割合がやや目立つ状況です。
- ◇生活リズムの安定を引き続き見守りつつ、家庭学習への向き合い方を改めて見直す時期に来ています。ご家庭との連携をこれまで以上に深め、学んだことが家庭での学習習慣へとつながる支援を進めます。

人との交流・地域や社会に関わる活動の状況等

分からないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。(77.9%)	→
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。(80.4%)	↑
友達との話し合い活動で、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている。(85.3%)	↑
友達の考えを大切にして、協力して課題の解決に取り組んでいる。(92.7%)	↑
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(80.3%)	→

- ◇友達と協力しながら主体的に学びを深める姿が見られ、これまで授業で大切にしてきた話し合いの積み重ねがしっかりと実を結んでいます。地域への関心や貢献意欲が高いのも、日頃から温かく見守ってくださる皆様のおかげです。
- ◇こうした「みんなで学び、育ち合う土台」を一層生かし、これからは身に付いた学び方を自分自身のさらなる成長や、身近な地域社会の未来へ自発的につなげていけるよう、児童の実践する力を育てていきます。

※本校の令和8年度全国学力・学習状況調査の結果概要については、特に保護者の皆様と共有したい部分を選んでお伝えしています。御家庭での学習にも是非お役立てください。

【小学校国語】（全国平均との比較）

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
□「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率 →上回っている □「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率 →上回っている □「話すこと・聞くこと」の平均正答率 →上回っている □「書くこと」の平均正答率 →上回っている □「読むこと」の平均正答率 →ほぼ同程度であるがやや上回る	●相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 ●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。	○多様な文章の比較や探究的な読書を通じ、筆者の意図を深く洞察したり、他者との議論で視野を広げたりする力を高める。 ○確実な基礎学力を土台とし、読み取った情報を基に自らの考えを構築し論理的に表現する力を高める。 ○獲得した語彙を文章作成やスピーチで意図的に使いこなす実践機会を増やし、漢字を正しく使えるようにしていく。

【小学校算数】（全国平均との比較）

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
□A 数と計算 の平均正答率 →上回っている □B 図形 の平均正答率 →上回っている □C 測定 の平均正答率 →上回っている □C 変化と関係 の平均正答率 →上回っている □D データの活用 の平均正答率 →上回っている	●立方体の計算による求め方について理解している。	○具体的な操作活動を通して、単に解を得るだけでなく、「なぜその解法が成り立つのか」を言葉や数式で共有し合う相互アプローチを重視する。 ○具体的な事象から課題を発見し、既習の知識を複合的に組み合わせて最適解を導き出す実践的な活用力の向上についても取り組んでいく。